2024 年度 東京慈恵会医科大学医学部皮膚科研修プログラム

Ａ．専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で，皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる充分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に，皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し，関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり，患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として，医の倫理の確立に努め，医療情報の開示など社会的要望に応える。

Ｂ．プログラムの概要：

本プログラムは東京慈恵会医科大学医学部皮膚科を研修基幹施設として，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科，東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科，厚木市立病院皮膚科、NTT 東日本関東病院皮膚科，虎ノ門病院皮膚科，東京警察病院皮膚科，東京逓信病院皮膚科、国立国際医療研究センター皮膚科，自治医科大学附属病院皮膚科，自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科，帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科、聖母病院皮膚科、公立昭和病院皮膚科、国立病院機構相模原病院皮膚科を研修連携施設とした研修プログラムである。なお，本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目Ｊを参照のこと）

また、県限定連携プログラムとして、5 年間の研修期間のうち 1.5 年以上を他県施設で研修するプログラムを設定している。

Ｃ．研修体制：

研修基幹施設：東京慈恵会医科大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：朝比奈　昭彦（診療科長）
専門領域：乾癬, アトピー性皮膚炎

指導医：梅澤　慶紀　　専門領域：乾癬，膿疱症
指導医：延山　嘉眞　　専門領域：皮膚悪性腫瘍
指導医：石氏　陽三　　専門領域：アトピー性皮膚炎, 瘙痒
指導医：勝田　倫江　　専門領域：アトピー性皮膚炎，乾癬
指導医：太田　真由美　専門領域：下肢静脈瘤

指導医：出来尾　格　　専門領域：ざ瘡、皮膚細菌学、アトピー性皮膚炎

指導医：鈴木　晧　　専門領域：ヒト乳頭腫ウイルス

施設特徴：　乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚悪性腫瘍、神経線維腫症、ならびに帯状疱疹、単純ヘルペス、疣贅などのウィルス性皮膚疾患の精査、治療に力を入れている。乾癬では、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的に行っている。

施設特徴：一般外来を担当し、臨床経験を十分に積み、皮膚科専門医に向けての具体的かつ幅広い知識と技術の修得を行う。専門外来（乾癬、アトピー性皮膚炎、スキンケア、腫瘍、ウィルス性疣贅、ヘルペス、パッチテスト）にて専門的検査法、治療法を具体的に修得できる。入院患者を受け持ち、内科的治療、外科的治療（植皮、皮弁形成など）に加え、全身管理を修得する。定期的なカンファレンス、セミナーで診断、治療、病理などの知識を養う。指導医のもと、学会発表（症例、臨床研究）と論文執筆を行う。レジデント３年目では、医学生、初期研修医、ジュニアレジデントの指導を担当することにより、教育スキルを修得する。

研修連携施設：東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科
所在地：葛飾区青戸 6-41-2
プログラム連携施設担当者（指導医）：川瀬 正昭（部長）

研修連携施設：東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科
所在地：東京都狛江市和泉本町 4-11-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：伊藤 寿啓（部長）

研修連携施設：東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科
所在地：柏市柏下 163-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：遠藤 幸紀（部長）

研修連携施設：厚木市立病院皮膚科

所在地：神奈川県厚木市水引 1-16-36
プログラム連携施設担当者（指導医）：福地 修（医長）

研修連携施設：NTT 東日本関東病院皮膚科
所在地：品川区東五反田 5-9-22
プログラム連携施設担当者（指導医）：出月 健夫（診療部長）

研修連携施設：虎の門病院皮膚科
所在地：港区虎ノ門 2-2-2
プログラム連携施設担当者（指導医）：林 伸和（医長）

研修連携施設：東京警察病院皮膚科
所在地：中野区中野 4-22-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：五十棲 健（医長）

研修連携施設：東京逓信病院皮膚科
所在地：東京都千代田区富士見 2-14-23
プログラム連携施設担当者（指導医）：三井 浩（部長）

研修連携施設：国立国際医療研究センター病院皮膚科
所在地：新宿区戸山 1-21-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：玉木 毅（医長）

研修連携施設：自治医科大学附属病院皮膚科
所在地：下野市薬師寺 3311-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：大槻 マミ太郎（医長）

研修連携施設：自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科
所在地：埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847
プログラム連携施設担当者（指導医）：前川 武雄（科長）

研修連携施設：帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科
所在地：神奈川県川崎市高津区二子 5 丁目 1 番 1 号
プログラム連携施設担当者（指導医）：栗野 嘉弘（部長）

研修連携施設：聖母病院皮膚科

所在地：東京都新宿区中落合 2-5-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：小林 里実（部長）

研修連携施設：公立昭和病院皮膚科
所在地：東京都小平市花小金井 8-1-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：高橋 一夫（部長）

研修連携施設：独立行政法人 国立病院機構相模原病院
所在地：神奈川県相模原市南区桜台 18-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：大松 華子（部長）

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者，プログラム連携施設担当者，指導医，他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は，専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員
委員長：朝比奈 昭彦（東京慈恵会医科大学病院皮膚科　主任教授/診療部長）
委　員：梅澤 慶紀（東京慈恵会医科大学病院皮膚科 教授/診療副部長）
：延山 嘉眞（東京慈恵会医科大学病院皮膚科 教授/診療医長）
：室井 康代（東京慈恵会医科大学病院皮膚科 外来看護主任）
：川瀬 正昭（東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科 部長）
：伊藤 寿啓（東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科 部長）
：遠藤 幸紀（東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科 部長）
：福地 修（厚木市立病院皮膚科 科長）
：出月 健夫（NTT 東日本関東病院皮膚科 部長）
：林 伸和（虎の門病院皮膚科 部長）
：五十樓 健（東京警察病院皮膚科 部長）
：三井 浩（東京逓信病院皮膚科 部長）
：玉木 毅（国立国際医療研究センター皮膚科 医長）
：大槻 マミ太郎（自治医科大学附属病院皮膚科 教授/部長）
：前川 武雄（自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 医長）

：菜野 嘉弘（帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科 教授/部長）
：小林 里実（聖母病院皮膚科 部長）
：高橋 一夫（公立昭和病院皮膚科 部長）
：大松 華子（国立相模原病院皮膚科 部長）

前年度診療実績：

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数（含生検術）	全身麻酔年間手術数	指導医数
東京慈恵会医科大学附属病院	141人	7人	963件	49件	8人
東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター	53人	2人	644件	0件	1人
東京慈恵会医科大学附属第三病院	65人	2人	747件	0件	2人
東京慈恵会医科大学附属柏病院	61.2人	2.7人	649件	9件	1人
厚木市立病院	31人	1人	214件	0件	1人
NTT東日本関東病院	100人	8人	711件	11件	2人
虎の門病院	133人	4.67人	991件	55件	3人
東京警察病院	64.6人	1.2人	84件	0件	1人
東京逓信病院	111人	4.2人	301件	0件	2人
国立国際医療研究センター病院	36.9人	3.4人	265件	2件	2人
自治医科大学附属病院	101人	13人	1071件	125件	5人
自治医科大学附属さいたま医療センター	106人	6.5人	835件	35件	2人
帝京大学医学部附属溝口病院	91.9人	6.6人	677件	2件	3人
聖母病院	65人	3人	918件	0件	1人
公立昭和病院	53.5人	5.8人	743件	1件	2人
国立相模原病院	47人	1.7人	247件	0件	1人
合計	1261.1人	72.77人	10060件	289件	37人

D．募集定員： 6 名
①通常プログラム： 4 名
②県限定連携プログラム： 2 名

E．研修応募者の選考方法：
書類審査，英語筆記試験、小論文および面接により決定（東京慈恵会医科大

学医学部皮膚科のホームページ等で公表する)。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

Ｆ．研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

Ｇ．研修プログラム　問い合わせ先

東京慈恵会医科大学医学部附属病院皮膚科　　梅澤　慶紀
TEL：03-3433-1111（内線 3341）　FAX：03-5401-0125
Email: dermatol@jikei.ac.jp（医局秘書対応）

Ｈ．到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p.26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

Ｉ．研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

１．東京慈恵会医科大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも１年間の研修を行う。

２．東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科，東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科，厚木市立病院皮膚科、NTT 東日本関東病院皮膚科，虎ノ門病院皮膚科，東京警察病院皮膚科，国立国際医療研究センター皮膚科，自

治医科大学附属病院皮膚科，自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科，帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科、聖母病院皮膚科、公立昭和病院皮膚科、国立病院機構相模原病院皮膚科では，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践、病診連携を習得し、東京慈恵会医科大学医学部皮膚科の研修を補完する。

Ｊ．研修内容について

１．研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

・通常プログラム

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携
b	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	大学院 (研究)
c	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)
d	基幹/連携	基幹/連携	大学院 (研究)	大学院 (研究)	大学院 (研究)
e	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	大学院 (臨床)
f	基幹/連携	基幹/連携	基幹/連携	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)
g	基幹/連携	基幹/連携	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)
h	連携	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。

b：研修基幹施設を中心に研修する。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。５年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

c：研修基幹施設を中心に研修する。連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。4 年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

d：研修基幹施設を中心に研修する。3 年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

e：研修基幹施設を中心に研修する。5 年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

f：研修基幹施設を中心に研修する。4 年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

g：研修基幹施設を中心に研修する。3 年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

h：研修基幹施設を中心に研修する。2 年目に大学院に入学し、博士号取得を目指す。カリキュラムを修了できない場合は 6 年目も大学で研修することを前提とする。

・県限定連携プログラム

コース	研修 1 年目	研修 2 年目	研修 3 年目	研修 4 年目	研修 5 年目
a	慈恵医大	慈恵医大	慈恵医大	慈恵医大/ 他県施設	他県施設
b	慈恵医大	慈恵医大	慈恵医大/ 他県施設	他県施設	慈恵医大
c	慈恵医大	慈恵医大/ 他県施設	他県施設	慈恵医大	慈恵医大
d	慈恵医大/ 他県施設	他県施設	慈恵医大	慈恵医大	慈恵医大

a：最初の 3 年 6 か月を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院

皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修し、残りの 1 年 6 か月を連携施設（県限定）で研修する。

b：最初の 2 年 6 か月を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修し、その後の 1 年 6 か月を連携施設（県限定）で研修し、最後の 1 年を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修する。

c：最初の 1 年 6 か月を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修し、その後の 1 年 6 か月を連携施設（県限定）で研修し、最後の 2 年を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修する。

d：最初の 6 か月を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修し、その後の 1 年 6 か月を連携施設（県限定）で研修し、最後の 3 年を東京慈恵会医科大学医学部皮膚科および，東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科，東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科、東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科で研修する。

２．研修方法

１）東京慈恵会医科大学医学部皮膚科

外来：指導医の診療の陪席、および指導医の下で外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：病棟医長の下、数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では１回/2-3 ヵ月英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成するこ

とを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	抄読会 外来、 病棟	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 外来 病棟	外来 病棟 手術	勉強会 外来 病棟	勉強会 外来 病棟 手術	外来 病棟	
午後	病棟 外来 病理	病棟 外来	病棟 外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来	病棟 外来		

２）連携施設

①東京慈恵会医科大学附属葛飾医療センター皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。東京慈恵会医科大学葛飾医療センター皮膚科のカンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 外来手術	病棟 外来手術	病棟 外来手術	手術病棟 褥瘡回診 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来手術		

②東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科：

指導医の下，近隣の市町村ならびに多摩地区の急性期病院の勤務医として，救急医療，処置，手術法ならびに地域の高齢化に対応して、地域のクリニックや病院、在宅医療と連携して医療を習得する。当科の週１回開催されるカンファレンス・抄読会に参加し学習する。学会の必須ならびに選択の講習会を受講し，年に２回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。皮膚科領域だけでなく、病院が実施する

地域医療連携の会、医療安全講習会や定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	
午後	病棟 手術 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来手術 検査	病棟 外来手術 検査	病棟 外来手術 検査	病棟 外来手術 検査	病棟 外来手術 検査	

※オンコール体制をとっている。1 回／週予定症状によっては、当直もある。

③東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。東京慈恵会医科大学附属第三病院皮膚科のカンファレンス，抄読会に週 1 回参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来 手術	病棟	外来		
午後	病棟 手術	外来 カンファレンス	病棟 カンファレンス	外来 手術	病棟		

※宿直は 2 回／月を予定

④厚木市立病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として外来診察，皮膚科的検査，治療，救急医療，処置，手術を経験する。外来は，午前中は初診，一般再来を，午後は外来手術，病棟往診を担当する。病棟は指導医のもと担当患者の診察，検査，治療を行う。毎朝の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週のカンファレンスでは病理組織のプレゼンテーション、学会予行演習を行い，評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連

の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 外来	回診 外来	回診 外来	回診 外来	回診 外来		
午後	病棟 外来/ 手術	病棟 外来/ 手術	病棟 外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来/ 手術	病棟 外来		

⑤NTT 東日本関東病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。この期間は東京慈恵会医科大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会は参加しなくて良い。必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	病棟	外来		
午後	病棟 手術	外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	手術 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来	手術		

⑥虎の門病院皮膚科

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：部長，医長のもと，数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では１回/月　英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安

全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
早朝			抄読会			病棟処置（当番制）	
午前	外来	外来	外来	手術 レーザー施術(入院)	外来		
午後	外来手術 レーザー施術 病棟	外来手術 レーザー施術 病棟	写真検討会 病理カンファランス 病棟回診	病棟	外来手術 レーザー施術 病棟		

⑦東京警察病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の皮膚科的救急医療，処置，手術法，外来診療，入院診療を習得する。中野杉並地区地域連携講演会、東京大学医学部関連病院の連携講演会、日本皮膚科学会主催の講習会、病院内の感染症関連の講習会、医療安全講習会、個人情報保護講習会等を受講する。該当症例があれば、筆頭演者として学会発表および論文執筆を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	公休	外来	
午後	症例検討・手術 病棟・廻診 宿直*	症例検討・手術 病棟・廻診 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来 廻診	病棟 廻診	公休	病棟 学会・講習会	

＊宿直は１～2 回／月（病棟内科当直）を予定

＊＊学会、講習会（平日夜、土曜、日曜随時開催）は可能な状況により適時参加

⑧東京逓信病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として外来診察，皮膚科的検査，治療，救急医療，処置，手術法を経験する。外来は，午前中は初診，一般再来を，午後は外来手術，レーザー治療，病棟往診を担当する。病棟は指導医

のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週のカンファレンスでは病理組織のプレゼンテーション、学会予行を行い，評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	回診 外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来/ 手術 レーザー	病棟 外来	病棟 外来/ 手術	病棟 外来	宿直※	

※宿直は 2 回／月を予定

⑨国立国際医療研究センター病院皮膚科

外来：研修前期は指導医に陪席し，後期は指導医と並列で，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。毎週の臨床写真・病理カンファレンスで経験症例について説明し，評価を受ける。後期には地域医療を行っているクリニックでの，週 1 回の外勤にて，往診による地域医療を経験する（曜日によりクリニックが中規模地域病院での外来診療となることもあり）。この際必ずデジタルカメラを持参し、未経験／不明症例・稀少症例等について適宜指導医に相談し、必要に応じて当院に紹介受診させる。

病棟：指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎日 15：30～の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の臨床写真・病理カンファレンスで経験症例について説明し，評価を受ける。

抄読・勉強会では１～2 回/月　その月の重要・問題症例に関係した英文・邦文論文を元にディスカッションを行う。月 1 回院内で開催される FCC(Foot Care & Cure)と称する多診療科・多職種（当センター研究所も含む）横断的カンファレンスに出席し，その月の糖尿病性足病変・重症下肢虚血等の症例についてプレゼンテーション・ディスカッション・再生医療をはじめとした先進医

療に関する情報交換を行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。1・4・7・10 月に開催される城西地区皮膚科病理組織勉強会（妻月会）に出席し，症例発表もしくは聴講する。その他皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーにも積極的に参加する。病院が実施する医療安全・感染管理・医療機器取扱・接遇等に関する講習会（e-ラーニング方式および講演会方式）に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。
自己学習：図書館には最新皮膚科学大系（中山書店）全巻（皮膚科外来にも配置）・皮膚科臨床アセット（中山書店）全巻等の主要皮膚科書籍、主要皮膚科和雑誌（皮膚科の臨床・臨床皮膚科・皮膚病診療・日本皮膚科学会雑誌・西日本皮膚科）および主要皮膚科洋雑誌（オンラインパッケージ契約による）が整備されており、加えて医中誌・Medline 等の文献検索システムや RefWorks・Web of Science・JCR 等の論文管理支援システム／引用データベース、さらに UpToDate や今日の診療などの電子教科書も整備されており、指導医のアドバイスのもとに空き時間・週末に自己学習を行う。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	病棟	病棟		
午後	他科兼診対応・病棟 回診	手術(前期) 地域医療(後期) 回診 (前期のみ)	他科兼診対応・病棟 回診	手術 回診	手術 回診 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ		

⑩自治医科大学附属病院皮膚科：
栃木県、茨城県西部、埼玉県北部の地域医療を担う基幹病院の勤務医として，皮膚科全般の診療経験を積み，病理組織の知識に裏付けられた診断能力を習得する。局所麻酔による小手術から全身麻酔下悪性腫瘍切除術、植皮や皮弁を使った再建術を経験する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講する。経験する豊富な症例の中から重要な症例を選択し、年に 5 回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文作成を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	病棟 回診	外来 病棟	外来 手術	外来 病棟		
午後	病棟 手術	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来 手術	外来 手術 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 手術	宿直※	

※週末宿直は１～２回／月を予定

⑪自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。

抄読会では１回/月 英文または日本語論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	回診 外来	回診 外来	総回診 外来 手術	回診 手術	抄読会 回診 外来		
午後	病棟 外来 病棟患者ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 手術ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来	病棟 手術 外来 外来患者ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟 外来	病棟 外来 病理ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ		

⑫帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科領域のすべてを習得する。カンファレンス，抄読会に週１回参加し学習する。形成外科，病理とも合同カンファレンスを行う。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演

会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 外来 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 宿直	美容 手術	病棟 外来	病棟 外来	美容 外来		

※宿直は１回／月を予定

⑬聖母会聖母病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として外来診察，皮膚科的検査，治療，乾癬，掌蹠膿疱症の専門的治療，アトピー性皮膚炎，蕁麻疹の生物学的製剤を含めた治療，皮膚科小手術の技術について修練を積むとともに，乳幼児の皮膚疾患，小児のあざに対するレーザー治療，美容医療を経験する。外来は，午前中は初診，一般再来を，午後は処置・外来手術を担当する。病棟は指導医のもと担当患者の診察，検査，治療を行う。毎週のカンファレンスでは病理組織のプレゼンテーション，学会予行演習を行い，評価を受ける。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に１編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土
午前	外来・病棟	外来・病棟	研究日	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟
午後	外来・小児レーザー	外来・美容 カンファレンス	研究日	手術	光線外来	

＊宿直は０回/月を予定

⑭公立昭和病院皮膚科

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の外来診療，病棟診療，手術法を習得する。水曜午後の症例検討会に参加し，学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 1 回以上の筆頭演者としての学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する感染対策講習会，医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来	病棟	
午後	病棟	病棟	病棟 手術 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	病棟	病棟 回診		

＊平日はオンコール体制。週末の病棟当番は 2 回/月を予定。その他、救急医療の東京ルールにより 1 回/3 か月の救急当番あり。

⑮国立病院機構相模原病院：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，他院からの紹介患者を主な対象とした診療を行う。当該患者は他院で診断確定や症状寛解に至らなかったケースが大部分なので，生検等の各種検査を行い，診断確定後，治療方針を決定する。午前中～昼過ぎまでは通常外来を行う。水曜以外の午後は生検・小手術・検査を外来で行い，加えて皮膚科入院患者の病棟診察・他科入院患者の往診を行う。水曜午後は，中央手術室にて悪性腫瘍等の手術を行う。隔週金曜午後は褥瘡回診に参加する。以上の診療を通して，第一線の皮膚科診断・治療法，処置，手術法を習得する。各種講演会やカンファレンス，また近隣地域の皮膚科勉強会・学術講演会に，月に一度程度の頻度で参加して学習する。当院病理診断科と合同の皮膚病理カンファレンスに月に一度参加し，症例を発表する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行い，該当症例につき論文執筆を行う。皮膚科関連の学会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会や CPC に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	外来 病棟・往診 外来手術 検査	外来 病棟・往診 外来手術 検査	外来 病棟 中央手術 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ	外来 病棟・往診 外来手術 検査	外来 病棟・往診 外来手術 検査・褥瘡回診	日直もしくは宿直※	

※日直もしくは宿直は2回／月を予定

３）大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて１）と同様にフルタイムで研修し，17 時以降，大学院講義出席，臨床研究，論文作成等を行う。

４）大学院(研究)

臨床教室，基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間，大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	１年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 ２年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	
9	
10	
11	
12	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施 研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
1	
2	５年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 試験合格後：皮膚科専門医認定

K．各年度の目標：

・通常プログラム

１，２年目：主に東京慈恵会医科大学医学部皮膚科において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1.基本的知識 2.診療技術 3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5.生涯教育）を学習し，経験目標（1.臨床症例経験 2.手術症例経験 3.検査経験）を中心に研修する。

３　年　目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎　年　度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMED などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

・県限定連携プログラム

１，２年目：主に東京慈恵会医科大学医学部皮膚科または他県連携施設において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1.基本的知識 2.診療技術 3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5.生涯教育）を学習し，経験目標（1.臨床症例経験 2.手術症例経験 3.検査経験）を中心に研修する。

３年目　　：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

４，５年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。３年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，

生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎　年　度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMED などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

Ｌ．研修実績の記録：

１．「研修手帳」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。

２．専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。

経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

３．専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。

４．専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。

５．「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

Ｍ．研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

１．専攻医は「研修の記録」のＡ. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年３月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。

２．専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指

導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。

3．指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。

4．研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。

5．専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート 15 例，手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。

6．研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N．研修の休止・中断，異動：

1．研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。

2．研修期間のうち，産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大６ヶ月までは研修期間に認められる。なお，出産を証明するための添付資料が別に必要となる。

3．諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要が生じた場合，すみやかにプログラム統括責任者に連絡し，中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O．労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与，休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 3〜4 回/月程度である。

2023 年 4 月 19 日

東京慈恵会医科大学医学部皮膚科

専門研修プログラム統括責任者

朝比奈　昭彦